



## チーム嶋村 ガバナー月信

Take Action for Rotary Future. Reach Out for World Peace.

第10号 2023年4月発行



### 親愛なる会長のみなさん

こんにちは

私たちの年度も残り3か月。最後まで元気なクラブづくりに邁進しましょう！

Take Action for Rotary Future ロータリーの未来のために行動しよう

#### 1. ロータリーの未来のために全力疾走しています！

例年より早い桜の開花（東京は3月14日でした）、私たちの活動も大きく花開いています。ここで2月から3月までを振り返ってみます（詳細は各担当部門の記事をお楽しみいただければと存じます）。

##### ①ISFR (INTERNATIONAL SKIING FELLOWSHIP OF ROTARIANS

／ロータリアン国際スキーフェローシップ)

2月11日から18日まで、北海道ニセコ町で開催されました。日本では初開催です。石丸修太郎第2510地区ガバナーと倶知安RCのみなさんとのご協力により大成功となりました。世界のロータリアンとスキーを通じて交流しました。ロータリアンの友情に感謝で一杯でした。



##### ②RYLA (ロータリアン青少年指導者養成プログラム) セミナー第3回

2月23日から26日まで、世界自然遺産の中にある「やんばる学びの森」で開催しました。3年ぶりです。初めて3泊4日で行いました。田名毅地区RYLA委員長のもとチーム一丸となって26名の受講生に「IMAGINE RYLA」を届けてくれました。ロータリアンの本気を見させていただきました。

チーム嶋村 ガバナー月信

### ③新クラブ「沖縄首里 RC」の創立総会と RI 加盟認証状伝達式

2月26日、ホテルサンスイ那覇で開催されました。当地区71番目であり、沖縄県内14名、県外12名の革新的なクラブです。メンバーには、大学の学長や教育関係者も多く、今後のアカデミックな活動が期待されます。ロータリーの声が届いていないところからの会員を集められました。今後の新会員探しの参考になると思われます。

### ④DEI セミナー

3月1日、東武ホテルレバント東京で開催しました。テーマは「クラブの成長は DEI の理解から」でした。36クラブから80名超のロータリアン、3名のローターアクターの参加もありました。地区 DEI・行動計画委員であり東京ワセダ RAC 会員でもある鈴木宏美さんの基調講演の後、テーブルディスカッションでは、DEI に対する活発な意見が交わされ、今後のクラブ運営の参考になりました。

### ⑤2022 学年度米山奨学生期間終了式

3月4日、自由学園明日館で開催しました。期間終了生がカウンセラーだけではなく、クラブや米山学友のみなさんに見守られ、米山奨学生としての思い出を語れるオープン型としました。米山学友になった後も思い出に残る期間終了式にしたいという積年の夢が叶いました。

### ⑥Rotary Future Festa

3月4日、タワーホール船堀で学友フェローズ委員会が主催しました。参加者は100名ほどでした。パネルディスカッション「語ろう！ 私たちの多様性、公平さ、インクルージョン」のパネラーは小原プラスさん(コラムニスト・コメンテーター)と一ノ瀬メイさん(パラリンピアン・アクティビスト・モデル)でした。世代や国籍などの異なるロータリーファミリーと共に DEI を考えることができました。ロータリーファミリーの活動報告では、国際基督教大学で学ぶ3名のロータリー平和フェローや1週間前に受講が終了し興奮冷めやらぬ RYLA 学友の発表もありました。さまざまなロータリープログラムへの理解を進めるとともに、ロータリーの未来を感じる行事になりました。



## 2. ロータリーの希望の風を感じました

3月10日、すみだトリフォニーホールでロータリー希望の風奨学金支援「東日本大震災チャリティーコンサート ～東北の未来へ向けて～」を開催しました。ピアニストの宮谷理香さんとフルート奏者の山形由美さんのご協力のおかげで、東北の未来へ向けて心温まるコンサートになりました。コンサートの最後に、リクエストをしました「あすという日が」をサプライズで歌わせていただき、感謝のフィナーレとなりました。

コンサートの前に行われました「奨学生と語る会」に集まっ



チーム嶋村 ガバナー月信

てくれたのは、大学2年生、3年生、4年生の計6名、出身も別々で、震災発生時は小学2年生から4年生でした。全員が片親を亡くしましたが、前を向いて前進しています。これからの進路についての質問に、「震災後、たくさんの人たちにお世話になったので、人に役立つことをしたい」など自らの夢を語りながらお話しする姿に感動しました。後輩たちへの支援のためなら、自らの体験をお話ししますと彼ら彼女らの瞳は輝いていました。

ロータリー希望の風奨学金は、2011年3月11日に発生した東日本大震災で両親または片親を亡くした子どもたちに、大学や短期大学、専門学校への進学をあきらめないでほしいという思いから生まれました。東日本大震災が発生して12年の節目の年に、このような出会いに感謝するとともに、目標の2033年3月までの残り10年、しっかりと取り組んでいくことを決意しました。

### 3. 4月は環境月間です

2021年7月よりロータリーの重点分野になった「環境」は、2022年10月、RI理事会で4月の特別月間になりました。ロータリーは、天然資源の保全と保護を強化し、環境の持続可能性を高め、人と環境との調和を促す活動を支援すると定めています。

本年度は「環境」にフィーチャーするために、4月22日を「アースデイ2580」（地球や環境を考えて行動する日）として、古本を集めて換金して植樹等を行う「ぶっく・デ・アース」プロジェクトを推奨してきました。各クラブの取組みや開催時期もさまざまです。地域の数クラブが合同で植樹するケースもありますし、沖縄分区ではサンゴの植樹や赤土流失防止のためのグリーンベルトの設置などもあります。小学校と環境についての授業や勉強会を開催し、本を寄贈するクラブもあります。未来のために、これからも持続可能な環境活動を考えていきましょう。

昨年10月23日の「ポリオデー2580」の経験を活かされているクラブが多く、新しいアイデアと共にTAKE ACTIONすることで、奉仕活動が活発となり元気なクラブづくりに貢献できていることは、たいへんうれしいです。

### 4. ロータリーの研修について

みなさんのクラブではロータリーの研修は行われていますか？ 「ロータリーに研修は必要ない、例会に出席していればロータリーは自然に身につく」。そういうご意見を以前聞いたこともあります。

会長のみなさんには、PNT（会長ノミニートレーニング）に2回、プレPETSに3回、例年にはない事前研修にご出席をいただきました。また、本年度に入ってから、入会2年未満の会員を対象とした「ハローRotary」、幹事、幹事エレクト、将来のクラブリーダーを対象とした「RLI」を開催しています。4月から始まる「LOVE ROTARY」では、「ハローRotary」と本年度の「RLI」の参加者を主な対象として、自らのロータリーへの考えを語り合うことをメインとします。ロータリーの友人を広め、ロータリーを好きになってほしいと願い、90分のセッションを行う予定です。本年度、ロータリーの研修を多く計画したことは、会員のみなさんにロータリーに触れ、ロータリーを感じる機会を多く作ろうと考えたからです。

3月6日、当地区のサイトにアップされたマンガ「奉仕の理念を未来へ繋ぐ 決議23-34から紐解く奉仕の心」電子ブック版にアクセスしていただけたでしょうか？ ぜひ、お読みいただき、例会の「会長の時間」でお使いいただきたいです。「奉仕の理念」についてロータリーの唯一のドキュメントである「決議23-34」を読み返し、クラブのみなさんにお伝えすることもロータリーの研修となります（詳細は地区

職業奉仕部門の記事をご覧くださいと存じます)。

また、松坂順一研修リーダーが書き上げた冊子「ようこそロータリークラブへ 新会員の皆様」をチーム嶋村の研修委員会から各クラブに5冊ずつ贈呈します。この冊子は「ハローRotary」で使った資料に、加筆いただき完成させたものです。ぜひ、新入会員の研修などに活用いただきたいです。

さまざまなロータリーの研修やセミナーに参加して他クラブの会員の考え方に触れ、自クラブに戻りクラブフォーラムなどで会員と対話する、その過程が自らをロータリアンとして作り上げていくことにつながります。本年度の地区運営方針のとおり、「ロータリーは人を育て向上させる場」です。ロータリーに出会って、いつも思っていることです。



**Rotary's first job is to build men (ロータリーの第一の仕事は人を育てることです)**

ウィリアム・ロビンズ 1974-75 年度 RI 会長

これは、ガバナー公式訪問の最後にみなさんにお伝えさせていただいた言葉です。

2023年4月1日

国際ロータリー第2580地区ガバナー 嶋村文男

※ガバナーへのメッセージをお待ちしています→ [info@motoffice.jp](mailto:info@motoffice.jp)

## 沖縄首里ロータリークラブ設立のご挨拶

執筆：沖縄首里 RC 会長 田中久光

沖縄首里ロータリークラブは、2023年1月26日、RIから正式に加盟認証を受けて誕生しました。第2580地区で71番目、沖縄分区では12番目のクラブで、沖縄県内在住者、県外のメンバー26名によるロータリーの新しいクラブ運営を目指すものです。世界で120万人のロータリーの仲間として、ロータリーの理念に共感し、同意し、活動を共にしていこうという仲間が参集しております。多くの先輩諸氏にご指導を賜りながら、地元地域のため、また県外海外との交流促進のため、できることを地道に一步一步進んでまいりたいと考えております。よろしく願い申し上げます。

クラブテーマは「平和—環境—未来」です。



2023年2月26日 創立総会の模様

## ロータリアンのご紹介 ～東京リバーサイド RC、東京福生 RC の新入会員～ 文書構成：チーム嶋村ガバナー月信編集委員会

元気なクラブづくりや会員増強などの役に立つ情報の一つとして、ロータリアンのご紹介をします。  
今回ご紹介するのは、東京リバーサイド RC の長谷川正範さん、東京福生 RC の埴村貴志さんです。

### 東京リバーサイド RC の長谷川正範さん：

Q1：プロフィールを教えてくださいませんか？

私はジャバラの製造販売をしています。年齢は 48 歳です。最近好きになった趣味はゴルフで、週末にはよく練習場やコースに出かけています。出身地は東京都荒川区で、大学は日本工業大学を卒業しました。私が好きな言葉は「人は信じてかかれ 学問は疑ってかかれ」です。これは、人には信頼し、学問には疑問を持つことが大切だという意味が込められています。私も、仕事でもプライベートでも、この言葉を胸に生きています。



Q2：ロータリーへの入会のきっかけを教えてくださいませんか？

地元の法人会で活動していたとき、先輩会員からロータリークラブへの入会を勧められました。その先輩は、私が新入会員のころからお世話になっており、信頼できる人物でした。その時にはロータリークラブのことはほとんど知りませんでしたが、ロータリークラブの説明を聞くと、交流会や講演会、セミナーなどが定期的に開催されているとのことで、ビジネススキルを磨くことができると思い興味を持ちました。また、先輩がビジネスクラブに所属していることから、入会することで彼ともっと交流を深めることができると思いました。入会してからは、例会に積極的に参加し、ビジネススキルの向上に努めています。

Q3：入会してクラブはどのような雰囲気でしたでしょうか？

クラブに参加すると、みなさんが和気藹々としていることが印象的でした。初めて参加した際も、みなさん積極的に話しかけてくれて、受け入れてくれる雰囲気がありました。自分の親世代の方とお話しできたのが新鮮でした。また、クラブでは役割分担が行われていて、役員の方々は自分たちの担当する役割に真剣に臨んでいる姿勢が見られました。役割分担により、クラブ運営がスムーズに行われていることが感じられました。さらに、炉辺会合で知っていたことですが、奉仕活動を通して地域社会に貢献している姿勢が見られました。その中で感動された経験があり、奉仕活動をする意義が少しわかった気がしました。クラブに参加することで自分自身も成長できると感じました。

Q4：今後、ロータリアンとして行いたい奉仕活動はありますか？

子どもたちに係る奉仕活動に興味があります。先日、社会奉仕活動でサンタ役でチキンとケーキをプレゼントしました。その時の子どもたちの笑顔をもたいたいです。4月には当クラブで釜石の少年野球チームへの寄贈がありそちらも楽しみです。現在の自分はどんな活動があるか、また自分にできる活動は何か

よくわかっておりません。いろいろな活動を見させていただき、今後の参考にさせていただければと思っています。

#### 東京福生 RC の埴村貴志さん：

Q1：プロフィールを教えてくださいませんか？

杉並出身ですが三鷹に住んで30年以上が過ぎています。53歳です。会社が瑞穂町にあり、東京福生 RC のエリアということでお誘いをいただき、入会させていただきました。仕事はいわゆる町工場ですが製造業の誇りを胸に頑張っております。



Q2：元々ロータリーのことはご存知でしたか？

ロータリークラブのことは従兄がロータリアンでしたのでよく存じておりました。また、青年会議所時代にロータリーのみなさまにはたいへんお世話になり感謝しておりました。

Q3：ロータリーへの入会のきっかけは？

青年会議所の東京ブロック協議会というところで福生の仲間たちに出会い、想いのある貴重な時間を過ごさせていただきました。当時の仲間たちが今ロータリアンとして活躍しており、そのお話をたくさん聞き、熱心にお誘いいただいたことがきっかけです。非常に温かいお迎えをいただき、感謝しかありません。

Q4：入会してクラブはどのような雰囲気でしたでしょうか？

とても活気のあるロータリークラブだと思いました。比較的年齢層も若いと感じます。また、大先輩のみなさまの温かく後輩たちを見守る姿に、感銘を受けました。

Q5：今後、ロータリアンとして行いたい奉仕活動はありますか？

ロータリークラブの強みは奉仕事業の継続性と「誰のために何のために」という理念がしっかりと会員に共有されていることにあるように感じています。たとえば「希望の風奨学金」や「あつゴミ」（スポーツゴミ拾い）などです。持続可能な社会を目指すと言いますが、現実には言葉で言うほど簡単なことではありません。継続力と組織力が無いとできないことだと実感してきました。ロータリークラブにはそれがあります。継続力と組織力のある、そして魂こもった想いのある事業に出会えたら幸せです。

## クラブからのロータリー活動の情報提供

3月14日、板橋区長室にて、ウクライナ避難民の子どもへの支援を行いました

執筆：東京板橋セントラル RC

贈呈式には、板橋区長とともにウクライナ避難民3世帯7名が出席されました。贈呈したのは、新中学1年生に制服、新小学1年生に体操服などです。本間邦弘会長から「贈呈品を愛していただければ嬉しいです」とのメッセージがあり、新中学1年生からは「ロータリークラブの支援・サポートを受けることに対してみなさんに感謝しています」とのメッセージをいただきました。新小学1年生の女の子が無邪気にしている様子に、今回の支援の機会をいただき、何かしらお役に立てたことに感謝しかありません。



贈呈式後、隣国のスロヴァキアにお子さんを留学させていただいたロータリークラブ会員がウクライナ人のお母さんと親しくお話ししていました。お子さん同士で交流することにもつながりそうです。今後も、ウクライナ避難民の方々が少しでも日本で安心して暮らしていただけるようにしていきたいです。また、今回の支援により、後に続く区内の個人・法人・団体が現れてくれればと願っています。

この模様が板橋区のサイトからプレスリリースされました。

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kusei/kouhou/houdou/1045105/1045242.html>

### 【ご参考】贈呈式に至るまでのプロセスは次のとおりです。

- ・昨年12/28、当クラブにて板橋区長を訪問しました。地域課題の収集のために行っています。
- ・その際に、板橋区内にウクライナ避難民がいるので、何か困っていることはないか質問しました。
- ・板橋区長により担当の文化・国際交流課長をお呼びいただきました。
- ・当クラブは区内の子どもへの支援を継続しているので、ウクライナ避難民の子どもたちの状況を説明いただきました。
- ・文化・国際交流課長より、この4月に、新小学1年生、新中学1年生となる子どもがいることを教えていただきました。
- ・そこで、新中学1年生の制服などを支援させていただけないかご提案をさせていただきました。
- ・その後、文化・国際交流課にてウクライナ避難民の子どもたちのいる世帯へヒアリングを行っていただき、今回の贈呈品の確定となりました。
- ・また、贈呈式へのウクライナ避難民の出席の手配も行っていました。
- ・上記の経過については、クラブの例会、理事役員会に随時報告を行い、スムーズに支出の承認を得、奉仕事業とすることができました。

なお、チーム嶋村ガバナー月信2月号、P.9掲載の「板橋区内のウクライナ避難民についてのヒアリング」もご参考いただければと存じます。

## 第21回俳句コンクール 活動報告

執筆：東京新宿RC 社会奉仕委員会 委員長 神崎正浩

2023年1月16日（月）、新宿区教育センターで、新宿区教育委員会後援のもと第21回新宿区小・中学生俳句コンクール表彰式を開催しました。針谷弘志新宿区教育長をはじめ児童・生徒21名、教諭2名、保護者・家族12名、会員15名が参加しました。

応募句総数は1599句で、クラブの俳句同好会の会員が選考しました。小・中学生の初々しい感性に基づいて素直に表現された素晴らしい句ばかりでした。私たちが伝えていくべき俳句という日本の伝統的な文化が子どもたちにしっかりと受け継がれていることに、とても感動しました。

この活動は2002-03年度に開始し、本年度で21回目になりました。地域に根ざした社会奉仕活動の一つとして、この俳句コンクールを可能な限り継続して開催していきます。



## 献血活動報告

執筆：東京本郷 RC 社会・青少年奉仕委員会 献血活動リーダー 深澤壽一

2023年2月6日（月）、私はこの貴重な体験を決して忘れることはないと思っています。

東京本郷ロータリークラブと日本赤十字社とホテルメトロポリタンエドモントが一体になり、今必要とされる血液の献血活動を体験しました。若いころは献血をすることは簡単で腕を差し出すだけで採血ができたので、現在も同様に採血できるものと思っていました。当日、「65歳以上は採血できない」と言われ、誠に残念無念でした。気を取り直し、陰の力として一日行動しようと思い、頑張りました。

当日は天気に恵まれ、さらにボランティア協力として東洋大学の学生ボランティア、ホテルメトロポリタンエドモントの松田支配人をはじめ多くの方々の協力もあり採血は順調に進みました。前回にも増して十分な実績を上げることができました。当日の実績は次のとおりです。目標 54 人に対して、献血志願者数 58 人、受付登録者数 53 人、採血者数 42 人。達成率は 107.4%でした。日本赤十字社のみなさま、ホテルメトロポリタンエドモントのみなさま、東洋大学の学生と、当クラブ会員が一体になり、努力した結果です。

本当に充実感で一杯になり、幸せでした。ぜひ、血液を必要としている人々に貢献しましょう！



チーム嶋村 ガバナー月信

## 東京武蔵野 RC と東京武蔵野中央 RC 共催、献血活動

執筆：東京武蔵野 RC

2023年2月25日(土)、午前10時より午後4時まで吉祥寺駅北口駅前、東京武蔵野 RC、東京武蔵野中央 RC の二つのクラブが共催で献血活動を行いました。北口駅前広場に東京都赤十字血液センターのバス2台が入り、受付や待合のテントを張って、献血者を受け入れました。両クラブの会員が二十数名参加し、チラシやプラカード、看板を持って、通り過ぎ行く通行人に呼びかけました。



東京武蔵野 RC からは長澤果蓮さん、東京武蔵野中央 RC からはオルバーグ悠里香さんの2人の青少年派遣学生も参加し、声を合わせながら、献血を呼び掛けてくれました。全身レンジャー装備の、ご当地ヒーローも参加させてほしいと支援活動に加わり、子どもたちに大人気でした。一緒に写真を撮る子どもたちもいました。

41名が献血を申し出て下さり、35名の血液が有効とされました。60名を目標にしていたので目標には届きませんでした。が、「もう少しもう少し」と会員のみなさんのがんばる姿が印象的でした。

## NPO 法人プラネットカナルへの支援活動

執筆：東京武蔵野 RC

児童養護施設では、保護者がいない、虐待されている、親がシングルマザーや在留外国人などの事情のある子どもたちが生活しています。しかし、この子どもたちも18歳になれば、児童養護施設を出て、独り立ちしなければなりません。NPO 法人プラネットカナルは、このような卒業生たちに電化製品や家具などを集めて寄贈する事業を行っています。



東京武蔵野 RC では、数年前から NPO 法人プラネットカナルへの支援を行っています。会員の中には、NPO 法人プラネットカナルに倉庫を無料で貸している方もいます。また、電化製品や家具などを寄贈する会員や寄贈を斡旋する会員、寄贈する品物の清掃に参加する会員もいます。

本年度は、2022年11月15日、清掃に参加、2023年1月18日、19日、28日、梱包作業の支援に参加しました。2月26日には、児童養護施設の東京家庭学校、聖友学園、杉並学園の卒業生への贈呈式があり、三澤会長が参加しました。

## ロータリアン国際スキーフェローシップ 初の日本開催

執筆：スキーフェローシップ日本会長 吉田弘和（東京麹町 RC）

ロータリーフェローシップは 趣味やスポーツの愛好家が国を跨いで親睦を深める活動で、世界に 100 以上あります。そのうちの一つ、ロータリアン国際スキーフェローシップ（International Skiing Fellowship of Rotarians、以下、ISFR）は 40 余年の歴史がありますが、今回初めて日本開催が実現しました。2 月 11 日から 18 日まで、日本を代表するスキーリゾート、ニセコに、国内外から 60 名を超えるロータリアンが結集しました。スキーフェローシップ世界会長のアリソン・ウォルターさん（米国アイオワ州、Ames RC）とのご縁がきっかけで検討が始まりました。嶋村文男ガバナーと第 2510 地区の石丸修太郎ガバナーの友情の下、倶知安 RC はじめ第 2510 地区のみなさまの絶大なご協力により、感動的な 1 週間を実現しました。

毎日、朝から夕方までいくつかのグループに分かれてスキー三昧。60 代 70 代の海外ロータリアンが 非圧雪の林にコースを切り、パウダースノーの中で雪しぶきを上げながら浮揚、その姿に驚き感動した若者が後を追いかける、そんな光景もたくさんありました。コースを教えあったり、雪に埋もれる仲間を助けたり、自然と親睦が進みます。ゴンドラの中では 初参加の日本のロータリアンも世界のロータリアンとお互いの人柄に触れ、新たな友情がたくさん生まれました。全員がストックに ISFR ロゴの入った旗をつけたので、ゲレンデでは一目でメンバーだとわかり、仲間意識も高まりました。



夜は連日イベントを開催。石丸ガバナー自ら鍋料理を調理し、地酒「二世古」と共に世界のロータリアンが堪能しました。チャリティーナイトでは、各参加者が自国の自慢の品を持ち寄り、オークションを開催しました。売上金で地元の児童養護施設の子どもたちにスキー用品をプレゼントしました。ISFR は世界各地でスキー大会を開催し、その地域での奉仕活動にも取り組みます（このオークションは北海道新聞の取材を受けその様子が記事として掲載されました）。他にも居酒屋ナイトや小樽ツアー、最終日にはお別れパーティーが盛大に開催され、地元のロータリアンとの交流も一段と深まりました。数々の思い出を胸に刻まれたようで、後日、感動の 1 週間であったことについて、たくさんのお礼メッセージが届きました。

今回の ISFR の取組みで、ロータリーが素晴らしい世界組織であることを改めて認識することができました。多くの日本のロータリアンから「世界のロータリーを初めて体感しました」という声をいただきました。2 年越しの準備で色々と苦心する場面もありましたが、スキーフェローシップ日本会長としてこの上ない喜びです。ISFR は今後も国内外で活動を続けていきます。ぜひ、わが地区からも一人でも多くの方にスキーフェローシップに会員登録するとともに、スキー大会にご参加いただけることを心からお待ちしております。

チーム嶋村 ガバナー月信

## やんばるで開催した「RYLA セミナー第3回」報告記

執筆：地区 RYLA 委員会委員長 田名毅

コロナ禍を乗り越え、2月23～26日、RYLA（ロータリー青少年指導者養成プログラム）を開催しました。東京15名、沖縄11名の受講生が那覇空港で合流し、バスで沖縄県国頭村にある「やんばる学びの森」に向かいました。多くのロータリアンが開会式に参加し、受講生を拍手で迎えました。開会式で嶋村文男ガバナーのご挨拶の後、三つの班分けが発表されました。オープニング講話では、フォーラムリーダーを務めた坂東隆弘さん（現・沖縄首里 RC）からロータリーの歴史について、嶋村ガバナーから東京東江戸川 RC が取り組んだミャンマーの小学校建設のお話がありました。夜のオープニングパーティーでは各班が仲間の「他己紹介」を行い親睦が始まりました。



2日目、朝活（班ごと、①ヨガ、②散歩、③ラジオ体操）を30分行い1日がスタート。第一講義は琉球弧世界遺産フォーラム代表の花井正光さんから世界自然遺産のお話しを通して、人間と自然との向き合い方、若者に何ができるかについて最初のグループワークを行いました。それを踏まえてガイド付きで約2時間のやんばるの森の自然散策がありました。第二講義は東京藝術大学准教授の山城知佳子さんによる映像・芸術表現を通して、知覚やイメージする力についての講演とワークショップを行いました。また、「思索の時間」では、自然の中で5m以上他人と離れ、完全に一人の時間を過ごし、「なぜ自分がここにいるのか」を考えてもらいました。BBQなどを楽しんだ後、本セミナーのフォーラムテーマが発表されました。「配偶者が重い病になりお金が必要となった。幼い子どもを思い、闇バイトに手を出す決意をした」という事例に対し、各班でバズセッション（3人に分かれての議論）を開始しました。

3日目、朝から各班で討議が再開され、フォーラム発表に向け班の意見をまとめ、模造紙2枚に書く作業に取りかかりました。個人の意見の違いを乗り越えて、どう集約していくか、各班でさまざまなドラマが繰り広げられ、その行方をカウンセラーは見守りました。午後のフォーラム発表では各班2人の代表が15分でプレゼンし、その後、班同士の意見交換と受講生全員が発言する機会を持てるようにフォーラムリーダーの土田光一さん（現・沖縄首里 RC）、坂東さんが議論を盛り上げました。どの班も自分の班が一番良い議論をしたと自負しており、彼ら彼女らの表情には達成感がありました。夜のカウンセルファイヤーでは、ろうそくの灯りのみの厳粛な雰囲気の中、これまでのさまざまなことに思いを馳せる機会となりました。そして、フェアウェルパーティーでは、はじめて班を超えての交流を楽しみました。

最終日、沖縄科学技術大学院大学（OIST）のヘザー・ヤング副学長による「Leadership」についての講義がありました。講師の情熱的なお話しにより受講生を引き込み、最終講義にふさわしいへん有意義な時間となりました。そして、全員に修了証が渡されました。受講生の感想文のほとんどで、「フォーラムでは他人の意見を尊重することの重要性を学んだ」、「班として意見をまとめる過程がたいへん勉強になった」、「この経験は必ず今後の人生に活かされると確信した」という内容でした。

本セミナーから何か一つでも彼ら彼女らの明日への力となり、それぞれの地域社会やコミュニティにおいてリーダーとしての資質が芽生えることを切に願います。

受講生をご推薦いただいた各クラブ、ご登録いただいたみなさまに心より感謝します。

チーム嶋村 ガバナー月信

## DEI セミナー「クラブの成長は DEI の理解から」の報告

執筆：地区 DEI・行動計画委員会 委員長 鈴木喬

3月1日（水）、DEI セミナーが錦糸町にある東武ホテルレバント東京で嶋村文男ガバナー含めて84名の出席で開催されました。ジェニファー・ジョーンズ RI 会長が活動指針として DEI を取り上げたことで、嶋村文男ガバナーは他地区に先駆けてクラブ活性化のための重点項目として委員会を設置しました。それでは、DEI (Diversity 多様性、Equity 公平さ、Inclusion インクルージョン) とはいかなる意味があるのでしょうか？

1990年代前半、アメリカ経済界の企業戦略として D&I が発展しました。そこでは企業の人材活用や組織開発のために、性別、国籍、性的指向、障害の有無にかかわらず多様な人々が差別なく働けることを目指しました。その結果、企業に新たな価値をもたらしました。その後、1990年代終わりに E が含まれ、さまざまなバックグラウンドで多くの人に力を発揮してもらう企業の戦略計画が定着しました。

RI は 2019 年 1 月の理事会でロータリーの DEI 声明を採択、2020 年 9 月にタスクフォースを設置し、2021 年 6 月に実施したアンケート調査 (世界 31,000 人) の結果により、すべての国の、すべての地区の、すべての会員が DEI を優先事項にすることを最終通達しました。

私たちの地区、クラブはその活性化のために何を求めれば良いのかを議論する必要があります。クラブの会員相互の交流、クラブの活動方針構築、奉仕活動への邁進、地域との交流、クラブの、そしてロータリーの認知度向上などを話し合い、建設することが肝要です。以上の要旨に基づき、本セミナーを開催し、約 3 時間にわたる充実した時を共有しました。

### ①基調講演「DEI ～若い力をロータリーに～」

講師は地区 DEI・行動計画委員（東京ワセダ RAC）の鈴木宏美さんでした。ジョーンズ RI 会長の重点テーマであるローターアクトの拡大支援に基づいて、ローターアクトとロータリーの絆が DEI をサポートするという内容でした

### ②テーブルディスカッション

テーマ 1 「DEI にどのようなイメージを持ちましたか」

テーマ 2 「DEI を取り入れることでどのようなメリットがあると思いますか」

出席者 84 名が 12 テーブルに分かれ議論し、各テーブル代表が発表しました。

### ③特別講演「ロータリーと地球環境」

講師は第 2750 地区、東京銀座 RC 会員の菅沼安嬉子さんでした。ロータリーの 7 番目の重点項目である「環境」にクラブがどのように関われば良いかについて示唆いただきました。

### ④DEI に関するアンケートの実施

出席者全員にアンケートを実施し、提出いただきました（回答は 69 通）。

次のようなご感想、ご意見をいただきました。

大変勉強になりました（24 名）、今の社会には必要です（13 名）、自身の認識を変える必要があるようです（6 名）、クラブの活性化及び会員拡大につながります（5 名）、DEI はすでに取り入れています

（5 名）、これから早速クラブに取り入れたいです（23 名）、多様な会員がいると充実感を感じ退会防止につながります（11 名）、クラブが地域社会に適応しています（19 名）、男性クラブからの脱却が必要です（3 名）、都市型クラブだと地域社会への浸透度が少ないようです（3 名）。

チーム嶋村 ガバナー月信

## 米山奨学生期間終了式

執筆：担当地区幹事 金子知未

2023年3月4日（土）、豊島区西池袋にある自由学園明日館講堂において、2022学年度米山奨学生の期間終了式が行われました。嶋村文男ガバナーが2年以上にわたり「重要文化財である明日館で、奨学生の旅立ちを多くのロータリアンに見届けてほしい」と思い続けてきたオープン型終了式の構想がこの日、現実のものとなりました。



冒頭、猪飼昭彦地区米山奨学部門長からお祝いの言葉の後、学友会が紹介され、これからもロータリーとの関係を持ち続けてほしいこと、ロータリアンとの接点を大切に母国との強靱な架け橋となってほしいとのお話がありました。

終了証書授与にあたっては、奨学生と共にカウンセラー、クラブ会長幹事の関係者が登壇し、スピーチを行いました。カウンセラーやクラブとの思い出に触れ、こみ上げるものがあるのでしょうか、時折涙ぐみながらお話しする奨学生も見受けられ、米山奨学の特長であるロータリアンと奨学生との深いつながりを感じずにはいられませんでした。

壇上では、奨学生より「奨学金のおかげで研究に専念できた」「クラブの例会、卓話やイベントを通して、多彩な日本文化を学ぶことができた」「カウンセラーから考え続けることの大切さを教わった」「ロータリー精神を学べたことが何よりの財産」というロータリークラブに対する感謝の思いが述べられました。それと同時に、「ロータリアンから受け取った愛と力を持って進んでいきたい」「この経験と感動を母国の後輩にも伝えたい」「仕事も奉仕も楽しむロータリアンは憧れ」「卒業後も専門分野を極めて学び続ける」「意見の違いを尊重し、世界平和に貢献したい」など、多くの奨学生の夢が語られました。

「commencement：終了式ではあるけれど、今日が始まり」や、奨学生とロータリアンとの間で何度となく繰り返された「おめでとう、そしてありがとう、これからもよろしく」というメッセージが強く心に残っています。歴史的建造物の趣のある長椅子に座りながら、出会いの奇跡、対話の大切さ、そこにある思いやりと愛について考え、執筆者にとっても忘れられない時間となりました。

奨学生みなさんに輝かしい未来がありますように。終了おめでとうございます。

## 「Rotary Future Festa」 DEI パネルディスカッションのレポート

執筆：地区ガバナー月信編集委員会

2023年3月5日、タワーホール船堀にて「Rotary Future Festa」が開催されました。ロータリー平和フェロー（国際基督教大学大学院で研究するバングラディッシュ人、コロンビア人）、RYLA 修了生、ローターアクター、ロータリー財団奨学生・学友、米山奨学生・学友、ROTEX といったロータリーファミリーが一堂に会しました。午前は、小原プラスさん（コラムニスト・コメンテーター）によるスペシャルトーク「僕はほとんど日本人 だから、あなたに伝えたい」が行われました。こちらには地元の高校生も参加しました。

午後からは、パネルディスカッション「語ろう！ 私たちの多様性、公平さ、インクルージョン」が行われました。パネラーは小原プラスさん（コラムニスト・コメンテーター）、一ノ瀬メイさん（パラリンピアン・アクティビスト・モデル）でした。お二人の思いをファシリテーターである比留間孝司地区青少年奉仕部門長が引き出していました。一ノ瀬メイさんは、水泳でパラリンピックに出場された方ですが、水泳を始めようとしたときに水泳スクールに断られました。「障害者がチャレンジしようとしても社会がそれをさせてくれない。社会が障害をつくっている」とお話しされました。小原プラスさんは、ロシア出身ですが5歳の時から姫路市に住んでいるので、中身は関西人です。「以前、姫路市内で買い物をしようとした時に、私の見た目だけで、私のお話を聞き取ってくれないということがありました」とお話しされていました。また、一ノ瀬メイさんは「障害者であっても、他の障害者の気持ちはわかりません。結局は個人です。お話を聴いてほしい人だけでなく、放ってほしい人もいます。それでも、「何かあったら、言ってね」という関係性を示す言葉は大切です」ともお話しされていました。小原プラスさんは、「DEI や SDGs といった言葉があります。しかし、人がつくった言葉ではなく、自分の心の中にある言葉で考え、話すことが大切です」ともお話しされていました。

パネルディスカッションの後には、ロータリーファミリーによるテーブルディスカッションでした。それぞれが DEI について実体験を挙げながら、世代をこえて活発な議論を行いました。RYLA 修了生から、「RYLA で年齢、国籍、性別、考え方などが異なるいろいろな人たちの意見をまとめることができ、素晴らしい体験をすることができました」とのコメントが印象的でした。



マンガ「奉仕の理念を未来へ繋ぐ 決議 23-34 から紐解く奉仕の心」電子ブック版  
～新入会員研修やロータリーファミリーにロータリーを理解していただくのに最適です～  
執筆：地区職業奉仕部門 部門長 藤掛靖元

本年度の地区運営方針の最初に「ロータリーの奉仕の理念 (ideal of serviced) が確立された歴史を再認識しロータリーの未来への可能性の挑戦、個々のロータリアンの覚醒促進」が掲げられています。私たちロータリアンはこの「奉仕の理念」を学び、常に携え行動に移すことが大切です。また「奉仕の理念」が明確示されているロータリー唯一のドキュメントである決議 23-34 についての理解を深める必要があります。

そのために、地区職業奉仕部門では「奉仕の理念」が確立された歴史と決議 23-34 をわかり易く学べるツールとして、マンガ「奉仕の理念を未来へ繋ぐ・決議 23-34 から紐解く奉仕の心」電子ブック版の作成に取り組みました。委員全員の協力の基に約 1 年をかけ、二十数回のミーティングでの議論を重ね、作画、編集を担当した福岡市の株式会社梓書院様の協力を得て、本年 3 月 3 日に完成、3 月 6 日に地区のホームページにアップしました。

本書ではロータリーが創立された 110 年前の世界にみなさんをお連れし、「奉仕の理念」が確立された歴史をマンガにより振り返り、その理念が成立した過程と決議 23-34 を体系的に学びます。みなさまもその時代にタイムスリップしあたかもそこにいたかのような想いでお読みいただければと思います。エンディングでは「奉仕の理念」を未来へ繋ぐ意義が語られます。マンガのストーリーで語り切れなかった部分は、解説で補足しますので合わせてお読みいただきたいです。ロータリアン、ロータリーファミリーはもちろん、ロータリアン以外の



方にもロータリーを知ってもらうツールとしてお役立ていただけるものとなっています。

本書を通しロータリーの目的に掲げられている「奉仕の理念」をもう一度思い起し、ロータリーの心を奮い起こしていただきたいです。そのために歴史を学んで、そして未来を見つめて、ロータリアン一人一人が主役となりこれからの活動・行動にチャレンジしましょう。



## 入会者情報 ～クラブにおける会員増強のためのヒント・アイデアを提供します～

### 1. 情報収集の時期

2023年2月15日から2023年3月15日まで（なお、入会日は1月10日から3月3日まで）

### 2. 入会者数（任意の提供ですので、実際の人数とは合致していないと存じます）

10名

### 3. 入会者の年齢層（小数点第2位切捨て）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	0	1	3	4	2	0
割合	0%	10.0%	30.0%	40.0%	20.0%	0%

※最年少38歳、最年長64歳

### 4. 入会者の性別（小数点第2位切捨て）

	男性	女性
人数	8	2
割合	80.0%	20.0%

### 5. 職業

ビルメンテナンス、ITメディア、EC事業、酒類製造販売、不動産賃貸業、建築業（金属建具業）、病院、金融業（信用金庫）、外国為替銀行、税理士

### 6. 紹介者との関係

友人、同じ会合に所属、稽古事・師弟関係、退会会員の引継ぎ、紹介者と新入会員のお父様が長年お付き合い、紹介者が他ロータリークラブの会員であった方からご紹介を受けた、仕事上の友人、会員の支店長の移動により新支店長と入れ替わり、取引先、顧問税理士

### 7. クラブ別に入会者数（クラブ名、一部省略）

東京新宿（1名）、東京新都心（1名）、東京紀尾井町（1名）、東京北（3名）、東京東（1名）、東京福生（1名）、東京秋川（1名）、宜野湾（1名）、以上8クラブから回答

### 8. 特記事項

今月号の「ロータリアンのご紹介」のお二人は法人会、青年会議所のおつながりからロータリークラブに入会されました。この「入会者情報」のデータによりますと（実際の入会者数とは異なります）、法人会、青年会議所からの入会者は入会者を合計すると約1割を占めています。昨年7月1日から今年3月15日までに集計した入会者数142人のうち14人になります。

また、法人会からの入会者（7人）の世代は、40代4人、50代2人、60代1人、青年会議所からの入会者（7人）の世代は、30代1人、40代5人、50代1人となっています。いずれも入会者の世代として40代が多くなっています。

ご協力いただきましたクラブのみなさま、入会者情報をご提供いただき、誠にありがとうございました。

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

ロータリー財団マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

7回	池田 正孝 (東京江戸川中央)	
5回	石川 彌八郎 (東京福生)	
4回	近藤 昌之 (東京江戸川中央)	橋本 恵治 (東京福生)
3回	四方 満 (東京新宿) 森岡 啓 (東京江戸川中央) 木下 邦彦 (東京福生) 岸野 寛 (東京福生)	星野 大記 (東京本郷) 矢作 文弘 (東京江戸川中央) 松本 信弘 (東京福生)
2回	富田 勝也 (東京福生) 田村 勝彦 (東京福生)	宮崎 慶男 (東京福生) 齋藤 文人 (東京福生)
1回	喜田 克英 (東京新宿) 田北 健志 (東京江戸川中央) 梶 卓朗 (東京福生)	谷井 玲 (東京紀尾井町) 杉本 直 (東京福生) 貝塚 義博 (東京福生)

ロータリー財団ポール・ハリス・フェロー

井上 浩士 (東京新宿)	宮本 和宏 (東京新宿)
成瀬 英治 (東京新宿)	糠信 泰行 (東京新宿)
落合 宙一 (東京新宿)	辻 和彦 (東京新宿)
浅見 亨 (東京紀尾井町)	堀内 雅史 (東京紀尾井町)
工藤 裕幸 (東京紀尾井町)	井上 行央 (東京紀尾井町)
中島 聡 (東京紀尾井町)	岡垣 栄治 (東京紀尾井町)
鳥居 徹也 (東京福生)	五十嵐 治 (東京福生)
島崎 尚之 (東京福生)	加羽澤 光輝 (東京福生)
片岡 芳保 (東京福生)	入江 誠一 (東京福生)
佐藤 和義 (東京福生)	粕谷 正幸 (東京福生)
高橋 美穂 (東京福生)	

米山功労者・メジャードナー

29回	坂戸 昌彦 (東京葛飾)
-----	--------------

米山功労者・マルチプル

2回	野村 高章 (東京東村山)
----	---------------

米山功労者

平良 友美 (浦添)
------------

2月28日分まで 敬称略、順不同

心よりお悔やみ申し上げます

村野建彦（むらのたてひこ）会員

東京東久留米ロータリークラブ

ご逝去日：2023年3月8日 享年77

入会日：1980年4月8日

榎兼七 相談役

ポール・ハリス・フェロー、ベネファクター、米山功労者



RYLA セミナー会場「やんばる学びの森」とやんばるの自然  
RYLA 修了生(米山学友)から「やんばるの自然がきれい過ぎてびっくりしました」  
というコメントをいただきました。

編集： 国際ロータリー第2580地区 ガバナー月信編集委員会  
ガバナー月信へのお問い合わせ/コメント： [info@motoffice.jp](mailto:info@motoffice.jp)

チーム嶋村 ガバナー月信